



広島市女性団体連絡会議 広報紙 第51号 2021年3月

目次

- ひろしま WENET2021 年男女共同参画セミナー（寄稿）・・・1～2
- 映画「ヒロシマへの誓い ― サロー節子とともに ―」を鑑賞して・・・2
- 2021 国際女性デーひろしま（報告）、会員（2000+17・平和）活動報告・・・3
- コロナ下における女性への影響と課題を考える、ひろしま WENET からのお知らせ・・・4



ひろしま WENET 2021 年男女共同参画セミナー

コロナ禍のため中止しました。

講師をお願いしていた寺本佳代弁護士に寄稿していただきました。



「性暴力をなくそうー「いのちとこころ」」 弁護士 寺本佳代さん



今年で、弁護士として14年目を迎えます。東京オリ・パラ組織委員会会長が、JOCの会議において、「女性」を一括りとした偏見・固定観念に基づく発言をしたことがきっかけで、各種組織・会議における女性比率を上げることが盛んに議論されています。法曹界も例外ではなく、女性比率は3割に届かないのが現状です。DV（ドメスティック・バイオレンス）や性被害を受ける人は圧倒的に女性が多く、このような女性に対する法的支援の依頼を断続的にお受けしていたところ、あっという間に時間が過ぎました。

昨年の WENET 男女共同参画セミナーでも取り上げられていますが、広島県では、「性被害ワンストップセンターひろしま」が開設され、今年8月で6年目を迎えます。相談対応件数は、毎年増加の一途であり、性被害の問題は決して他人事ではないのだと日々痛感しています。

上司からセクシャル・ハラスメントを受け、勤務先に対応を要請していたにも関わらず十分な支援が受けられず、性犯罪の被害者となる方、飲み会に参加して途中で意識がなくなり、気がついたら性被害を受けていたという方（レイプ・ドラッグの被害は多発しています）、ネット上で知り合った人からの性被害、性的画像をネット上に晒されるデジタル性被害、塾の先生や部活動のコーチから被害をうけた未成年者、家庭内で起こる性的虐待など、様々な相談が寄せられるため、支援員も、連携している専門家（医師、弁護士、心理士など）も、フル稼働しています。

2017年、被害者団体や女性団体からの強い働きかけもあり、法定刑の厳罰化など、明治40年の刑法制定以来、初めて「性犯罪に関する刑法」の大幅な改正が実現しました。この「刑法の一部を改正する法律」の付則には、「3年後に必要ながあれば刑法は再改正を検討する」という旨が記載されています。そのため、法務省では、2020年6月から、刑法性犯罪規定の改正を審議する有識者会合として「性犯罪に関する刑事法検討会」を開催し、直近では、2021年2月16日に第12回会議が開催されています。

検討委員には、性被害の当事者である山本潤さんや、被害者の臨床治療にあたる医師などが加わり、検討会において、被害の実態が説明され、改正に積極的な発言が相次ぎ、刑事法の専門家である委員も真摯に傾聴する姿勢がみられたとのことでしたが、2020年11月以降、議論の対象が限定され、同意のない性交を性犯罪として規定することや性交同意年齢を16歳未満とする改正が厳しい状況にあるようです。

私は、不同意性交罪の創設について賛成の立場です。厳しい暴行脅迫要件をクリアできないために、刑事責任を問うことができない事件が多数存在します。また、同意のない性交が犯罪だと明確に規定されることで、個々人の性的自己決定権・性的自由を保護しようという意識がさらに高まり、性犯罪・性被害への抑止効果が期待されます。とはいえ、現場の実態を見れば、不同意性交罪を創設しただけで問題が解決するとは思えないという実感も持っています。

不同意性交罪の創設に慎重論が根強いのは、性的関係を持つことへの同意をしていたか否か、という当事者の心の内を

犯罪成立の要件とした場合、外形的・客観的にこれを証明するのは困難であるというのが理由の1つです。事件発生時に、被害者から明確な「NO」が示されていて、かつ、そのことが客観的証拠により確認できる場合には証明ができます。しかし、これまで相談を受けてきたケースの中で、このような条件を満たしているものはごく一部（ほぼ存在しない）でしかありません。

日本では、男女ともに適切な性教育が受けられていません。大人である親世代も、祖父母世代も自分たちの性の問題にきちんと向き合ってこなかったがために、性の問題は、成長の過程でなんとなく後ろめたさ（ネガティブなイメージ）を感じながら、自然に身に着けていくものといった認識を持っている方が多いのではないのでしょうか。

日本では社会の中に性的な情報が溢れかえっています。インターネット上にはすぐにポルノ動画の広告が映し出され、コンビニエンスストアには成人誌が並び、漫画やアニメの中にも過激な性描写が扱われることが少なくありません。そのほとんどが商業的な性表現であり、現実離れた妄想に過ぎないのですが、適切な性教育を受けないまま、このような性的情報に触れた場合、それに気づくことができません。私が一番強調して言いたいのは、このような問題は若者や子どもだけに限ったものではないということです。還暦も近いような、世間一般には評価の高い社会的立場にいる人でさえも、商業的性描写の妄想にとりつかれているかのように性加害を行う人がいるのです。また、性加害者の中には、何らかの障害によって、認知に歪みがある人も少なくありません。

他方、被害者となる方も、性的な知識を持たず、学ぼうともしないまま、流されるように被害に遭うケースが少なくあ

りません。現行では性的同意年齢が13歳とされていますが、この年齢で性交の本当の意味を理解し、同意・不同意を自分の意思で決められるだけの知識がないのはもちろんのこと、自分の身体と心を大切にすることというのはどういうことなのか、明確に自分の気持ちを相手に伝えるということがどういうことなのか、そもそも自分はYesなのかNoなのか、自己認識が持てないまま成人し、婚姻し、出産し、年を重ねている人も少なくないという印象です。

できるだけ早い不同意性交罪の創設を望みます。しかし、それだけではこの日本社会における性被害をなくすことはできない、性被害をなくすためには、個々人が正面から自分の性の問題と向き合い、正しい性的知識を身につけること、また、その前段階として、個々人が自分の権利や意思表示について認識を持つことが必要です。そうでなければ、「同意」「不同意」が極めて不明確になり、性的行為への萎縮効果のみが残り、性に関するネガティブなイメージがさらに大きくなるのではないかと考えています。

適切な性教育により性被害を減らし、 人生を豊かなものに

そもそも性に対するイメージはポジティブなものでなければなりません。適切な性教育によって、性被害によって傷つけられる人を1人でも減らし、また、青年期以降の人生を豊かなものにすることができます。

最近、小中学生の保護者世代がターゲットの女性ファッション誌でも、性教育の問題について取り上げるほどに、この問題への関心が高まっています。この流れがさらに大きくなり、行政や教育機関がこれまでの施策を見直すまでになることを願っています。 (2021年3月6日)



映画「ヒロシマへの誓い —— サーロー節子とともに ——」を鑑賞して

2021年1月22日、核兵器禁止条約発効が実現したその日に映画は公開された。

核兵器禁止条約の採択に大きく貢献した、カナダ在住の被爆者であるサーロー節子さんの生い立ちや核兵器廃絶のために活動し続けるその姿を追ったドキュメンタリーだった。

圧巻の迫力と心を打つスピーチに感動して思わず涙があふれた。

サーローさんは言う。「同情は求めている。人々に行動して欲しい。そのために私は体験を語り続けるのだから・・・」と。

核兵器禁止条約が採択されたその時も、喜びと同時に前を見据え、「これは核兵器の終わりの始まり。困難な道はこれからだ」と、ますます力を込められた。時に脅迫を受けることもあったというが、原爆犠牲者の無念を思うと口を閉ざすことなどできなかったと振り返る。

「核兵器廃絶に向かって希望と勇気を。政治を変えるのは一人ひとりの市民の声である。一緒に世界を変えよう」という訴えにどう応えていくのかが問われている。心が揺さぶられるような思いで映画館を後にした。(学習部会 西村)





2021 年国際女性デーひろしま

日時：3月7日（日）13時～15時30分
会場：合人社ウエンディひと・まちプラザ

「核のない世界をめざして 私たちが今すべきこと」

被爆証言 被爆者の矢野美耶古さんは、1931年生まれ。8月6日は体調が悪く建物疎開作業を休み自宅で被爆。体調が悪くて1年間部屋から出られず「寝てばかりで横着者」などと言われ、内部被ばくの影響について何も知らされていなかった。被爆2世、3世のことを考える必要があると訴えた。

講演 朝日新聞広島総局記者の宮崎園子さんの「女性として、記者として、広島にいたいということ」。広島県生まれで香港や米国で学生時代を過ごす。新聞社の場合女性記者はマイノリティー。この4年間世界はものすごいスピードで変わっているのに広島は思考停止しているのでは。女性記者として少数派だからこそ持てる視点を活かし、子どもたちにどう語り継ぐか、批判精神が必要と力強く話された。

若い世代の平和活動報告 「核兵器を知りたい広島若者有権者の会」（略してカクワカ）活動報告と「ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト」からセミパラチンスク市（現在はカザフスタン共和国セメイ市）との市民交流の報告。

最後に核兵器禁止条約に一日も早く日本政府が参加することを求めるアピールを採択した。（啓発部会 貴田）



「被爆電車に乗って 1945 年を語る」会 13 回を振り返って

2000+17・平和 柴田幸子

20世紀は、第1次世界大戦そして第2次世界大戦と、世界中を巻き込んで2度の戦争をおこし、「戦争の世紀」といわれてきました。そして2000年を迎え、世界中の人々が21世紀こそは、「平和で戦争のない世界」になることを願って「国連特別総会女性2000年会議」が開催され、併せて“21世紀に向けて、男女平等・開発・平和”をテーマに女性NGO会議がニューヨークで開催されることになったのです。

広島市では、1995年の第4回世界女性会議（北京会議）に続いて2000年国連女性NGO会議に広島の女性の声を届けようと「平和のための女性ワークショップ in N.Y 実行委員会」が立ち上げられ希望者が参加しました。その後、ヒロシマと平和を継続して考え学ぶことを目的として、有志が集まり活動を始めました。2007年に「日本女性会議2007ひろしま」が開催されたことをきっかけに、団体の名称を「2000+7・平和」とし、平和を考え継承していくための事業を始めることとしました。それは、『被爆電車に乗って1945年を語る』と題して被爆電車体験乗車会を行い、原爆、戦争、平和、その他、様々なことについて、考え語り合う機会になるよう取り組んだものです。

1回目は2008年7月5日、広島駅～原爆ドーム前～己斐～原爆ドーム前まで車内で路面電車の進行に合わせ当時の状況を説明し、下車後には、中央図書館に場所を移してミニシンポジウムを行い、被爆、沖縄戦、岡山空襲、大阪空襲と学徒動員などをテーマに体験者の話を聞きました。これまでに実施したのは

13回となり、毎回コースを変え、親子・個人・グループなど多くの方に参加していただきました。昨年、14回目を計画していましたが“コロナ”で中止となったことは残念に思います。（10回を終え2000+17・平和に改称）

1945年8月6日、広島は原子爆弾の投下により壊滅的な被害を受けました。電車を運転していた女学生も建物疎開作業をしていた中学生たちも、そして国民学校へ行っていた小学生も大人も・・・たくさんの命が奪われました。市内にあった電車123両のうち108両も被災しました。しかし厳しい状況の中で懸命な復旧作業が行われ、3日後の8月9日には1番電車が己斐から西天満町へと出発したのです。人々は運転を再開した電車に希望を感じ勇気づけられました。当時の車両が2両、今も現役で市内を走っています。651号と652号です。「ヒロシマ」を象徴する「原爆ドーム」そして今も市内を走っている「被爆電車」など、わたしたちは、復興した街に残された「物言わぬ碑や建物」を見たり、あの日あの時代を経験した人の話を聞くことで残念無念の“命”を考えて生きたいと思います。

“ことは”だけで「原爆」を伝えることは非常に難しいことですが、被爆電車に乗ったことをきっかけに改めて「ヒロシマ」を考え、知り、一人ひとりが「核」のない世界をめざす小さな1粒の平和の種をまいて下さることを願っています。二度と惨禍のない平和な世界を次世代に残すことが、今を生きる私たち大人の責任です。

コロナ下における女性への影響と課題を考える

～内閣府男女共同参画局に「コロナ下における女性への影響と課題に関する研究会」報告から～

昨年（2020年）9月に内閣府男女共同参画局に「コロナ下における女性への影響と課題に関する研究会」が発足し、昨年の11月には研究会から緊急提言が発表されました。

そのなかで、「女性不況の様相」が確認され、DVや性暴力の増加・深刻化、女性の自殺者の急増、シングルマザーからの生活苦の訴えなど、コロナ下における、女性への負の影響の大きさを述べ、DV、性暴力、自殺等の相談体制と対策の強化、エッセンシャルワーカー（日常生活における、必要不可欠な仕事に従事する労働者）の処遇等の改善、ひとり親家庭への支援の強化など、多様な対策を提言しています。

実際、「女性不況の様相」とはどのようなことか、女性は男性に比べて非正規雇用労働者の割合が高く、特に、コロナ下影響が大きかった宿泊・飲食業などの業種で非正規として多くの女性が働いているため、女性に大きな影響がでました。

安い労働力の供給源であり、雇用調整弁として、女性を家

庭責任と両立可能な非正規労働者として活用してきた、これまでの政策のために出た結果です。

同一労働同一賃金はもちろんですが、職場、学校、家庭などあらゆる場で、男女が対等になる改革が必要です。DVや性暴力、ハラスメント問題にしても、男女の対等な関係をつくることが前提になります。

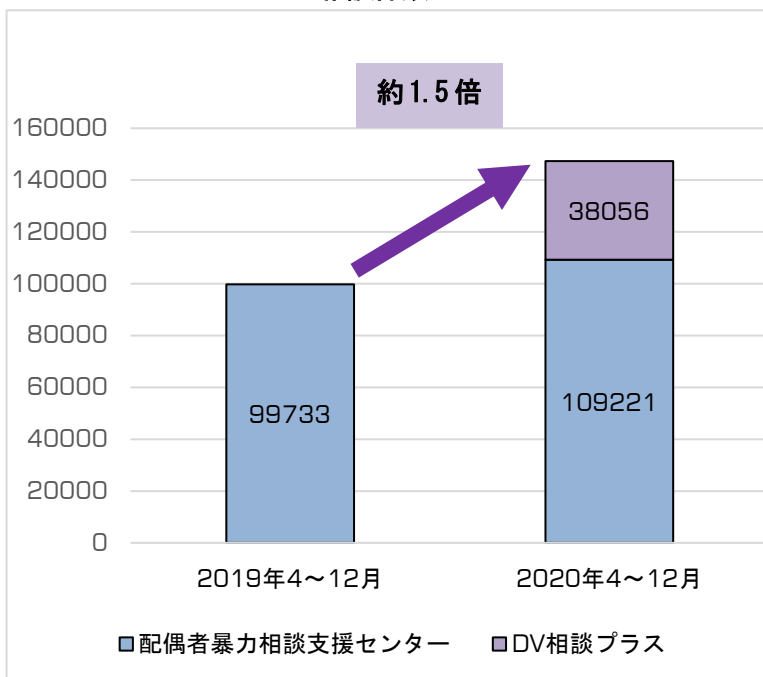
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の森元会長の女性蔑視発言から、ジェンダー平等について発言が相次いでいます。日本の現状を憂い、これを機会にジェンダー平等社会に変えていこうと呼びかけられています。

私たちがこれまで以上にジェンダー平等について取り組みを強化していくことが必要ですし、特にDVや性暴力被害を防ぐためにも、若い世代への教育に力を入れることが必要ではないでしょうか。

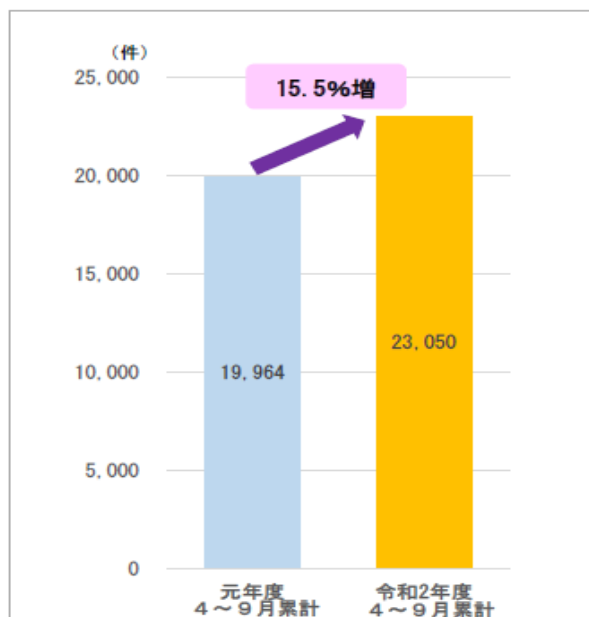
（啓発部会 中嶋）

DVおよび性暴力 相談件数

DV 相談件数



性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ
支援センターの全国の相談件数



DV 相談プラス (<https://soudanplus.jp/>) : 内閣府男女共同参画局が2020年4月に設置。電話、メール、チャットでの相談他、Twitter・Facebookもある。多言語対応、24時間対応、同行支援、保護、緊急の宿泊も提供。

広島市女性団体連絡会議（ひろしまWENET）からのお知らせ

- ◆ 広島市女性団体連絡会議 2021年度総会
日時；6月5日（土） 10:00～12:00
場所；広島市男女共同参画推進センター
（ゆいぽーと）

- ◆ ヒロシマ平和の灯のつどい
日時；7月31日（土） 17:30～
場所；平和記念公園等
たくさんの方々のご参加をお待ちしています。



WENET ニュース第51号 2021年3月発行

発行者 広島市女性団体連絡会議（広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付）

責任者 山本 紀子